

1 多項目自動血球分析装置 XE-2100 の使
2 用経験
3 異常検体における分析誤差

4
5 ○大山正之（千葉大学病院）
6

7 【目的】新規血液検査システム導入から一年余り経
8 過した。今回、日常検査における多項目自動血球分
9 析装置 XE-2100（シスメックス社）の問題点につい
10 て報告する。

11 【対象および方法】試料として当院入院・外来患者
12 および健常人の EDTA-2K 加静脈血検体を用いた。比
13 較対照機器として従来機種である GEN・S（ベックマ
14 ンコールター社）を用いた。また、網赤血球につい
15 ては XL-MCL（ベックマンコールター社）で比較した。

16 【結果】(1) 血算項目の相関：GEN・S との相関係数
17 r は WBC 0.995、RBC 0.995、Hgb 0.999、MCV 0.971、
18 PLT 0.994 と良好であった。(2) 白血球 5 分画の相
19 関：GEN・S との相関係数 r は、好中球 (%) 0.981、
20 リンパ球 (%) 0.984、単球 (%) 0.899、好酸球 (%)
21 0.99 と良好であった。好塩基球 (%) では出現頻度
22 の低さもあり 0.576 であった。(3) 網赤血球の相関：
23 相関係数 $r=0.938$ 、回帰式 $y=0.734x-0.639$ となり、
24 XE-2100 のほうが低値傾向となった。(4) 赤血球フ
25 ラグメントの目視法との相関：相関係数 $r=0.753$ 、
26 回帰式 $y=1.567x-1.158$ となり、バラツキが大きかつ
27 た。

28 【考察】基礎的検討は、結果でも述べたとおり問題
29 なかったが、血小板数低値域における目視法との結
30 果に差が生じた。XE-2100 では、インピーダンス法
31 と同時に光学的に測定する機構が備わっており、両
32 者の値にズレが生じた場合、光学方式のものが優先
33 される。ところが従来の確認法である Fonio 法とデ
34 ータの乖離が散見されることから今回の発表に至つ
35 た。

36 043-222-7171
37
38
39